

第2回

我孫子市まち・ひと・しごと創生

有識者会議

A班

令和2年11月6日（金）

我孫子市企画課

(A班)

○事務局 皆さん、お待たせいたしました。定刻となりましたので、始めさせていただきます。

今回は、前回の会議に引き続き施策の評価をしていただきたいと思います。

施策表2ページ目の事業番号8番、手賀沼沿い農地活用計画に沿った農地活用面積から施策の評価をお願いいたします。それが終わりましたら、前回もお願いさせていただいたんですが、3回目の会議では気になる事業などについて、実際に担当の所管課を呼んで意見交換ができればということで考えておりますので、もし皆さんの中でこういう事業について少し意見交換をしたいとか、そういうのがありましたら、評価後にご意見をいただければと思います。

また、昨日、もう一つのグループのほうの審議をしていただきまして、こちらのグループとちょっと関連事項があって、伝えていただきたいと思いますという項目がございましたので、そちらを先にお伝えさせていただきます。

お手元の資料ですと、A3の横の14ページになります。

14ページの一番下の45番、我孫子産米、野菜が給食に使用されていることを知っている児童生徒の割合、学校教育課の事業なんですが、例年それほど低い数字ではなかったんですが、今回、実績を見てくると「遅延」ということで、いま一度ちょっとここの事業について見てみましょうということ審議をいただきました。その結果、おおむねが子供たちも知っているんだけれども、これ知っただけで終わりなのかと。今後、市のほうとして農業施策に対して、例えばお子さんが大きくなったときに農業に携わってほしいのか、また、農業に対してボランティア活動に取り組んでもらいたいのか、その方向性が分からない中で、ただ知ってもらうという事業は、それはちょっとないのではないのかなというところで、今回附帯意見をいただきましたので、今後の農業関係の展開ですね、そちらのほうにも関わってくるので、ぜひこちらのグループのほうにも伝えていただきたいと思います。

実際、農業のほうの施策についてはこちらでご審議をしていただきますので、できたら次回、所管課を呼ぶに当たっては、農政課か学校教育課、どちらを呼ぶかというところもあるんですが、検討材料として上げておりますので、その点も踏まえて今日ご審議をしていただけるとありがたいなと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、次第に入りたいと思います。

議題の1番、令和元年度施策評価について、それでは、よろしく願いいたします。

○熊田委員 改めまして、皆さん、おはようございます。第2回まち・ひと・しごと創生有識者会議を始めたいと思います。

冒頭、B班のほうから45番についてご提案いただきましたけれども、率直に、何か深く考えているなということで、すごいなってちょっと感じました。知っただけで終わりで、その後の今後のことまできちんと考えているということであれば、A班もしっかりやっていかなきゃいけないなと思います。改めて、そういった見方も重要なのかなということと、それから、この後の農政課、学校教育課含めた農政事業についてこれから進めていきたいと思いますので、大炊さんも来ていますので、よろしく願いいたします。

では、A班の担当のほうのまた2ページに戻っていただいて、早速ですけれども、8番、それから9番で、併せて10番から14番まで、多くありますけれども、一つずつ見ていければと思います。

農業の生産性の維持・向上、手賀沼沿いの農地活用計画に沿った農地活用面積、それから、認定農業者数の人数というところで、この2つについては、8番がマイナス18%で遅延状況です。それから9番については、一応達成はしておりますということです。

これについてはどうなんですかね。遅延というところを見ていったほうがいいのかと思いますけれども、農地活用計画に沿った農地の活用面積、これ前回、まとまった一団の農地がないために、今後も手賀沼沿い農地活用計画に基づき保全活用と農業者支援を支持していく、それから、地域の新たな担い手の育成に努めていくというところになっています。まさに先ほどの件につながってくるところにもなるのかなというふうには感じておりますけれども、この辺について何かご意見ってございますかね。

大炊さん、どうですか、8番と9番。

○大炊委員 農地の活用面積ということですが、現状にある農地がここに記述されたような感じで、現状はやはり集団的な広範囲の農地というのは、なかなか我孫子の場合は地理的な条件で少ないというところがある中で、今現状は農業者が高齢化していて、相続等とか、あと、高齢化でできないというところで手放すとか、あとは農地転用して、ほかの活用に切り替えているというところが増えていきますので、そういうところが意外と、優良農地がだんだんなくなっているという現状があるんですね。そこで、それをどうやって食い止めていくのかというところが今現状の課題だと思います。すぐにそれが見つからないような状況がありますので、この下に新規就農の方とか、新たな担い手の育成ということが視野に入ってくるのだとは思いますが、なかなか新規さんも急激には増えてきていませんし、新規の方には、農地を取得することも難しい中で、やっぱり既存の農家の人が手放す農地という、優良農地は自分の手元に戻しておきたいという、そういう現状はありますので、なかなか難しいところ

があるんで。現状はそういうところですね。それをどうやって維持をしていくのかということになってくるんですけども、まだまだちょっと解決策が見えてきていないというところですよ。○熊田委員 なかなかそういう意味だと、この遅延に対する具体的な解決策が見えてこないというところですかね。その支援を推進していく、それから育成に努めていくといったのが今後の対策になっているのかということなんだろうかな。事情は分かるけどってことなんですかね。

○大炊委員 そうですね。市の思いと現状の農業者の高齢化、それと相続が発生したときにどうしても手放せざるを得ないというのがなかなかかみ合っていない。土地の所有者である農業者の思いと市の思いがなかなか一致してこないということです。その壁を取っ払うにはどうしたらいいんだということになると思うんですけども。

○熊田委員 じゃそのあたりを踏まえて、ちょっと先に進みながら全体的に見ていってもいいのかなと思います。

○大炊委員 そうですね。

○熊田委員 じゃ10番の農産物の加工施設を有する農業者数、それから11番の農業拠点施設で販売供給する我孫子産農産物の新開発の加工品数になってきましたけれども。

○大炊委員 10番のほうからですけども、農産物の加工施設を有する農業者数ということですけども、ここで今までですね、保健所の許可に関してですけども、許可制のものと届出制のものがありまして、許可制のものに関しては、お惣菜とかお弁当とか、かなり複雑な工程をするものが許可制で、あとお漬物とかお餅関係に関しては届出だけで、あえてしっかりとした施設でなくても、保健所のほうが許可をしていただいたんですけども、様々な問題がありまして、来年度の4月からですか、全てほとんどのものが許可制になってしまうということで、非常にハードルが高くなってきますので、その点、気楽に6次産業化という加工に着手する人が少なくなってくるのではないかなというのが現状であります。届出だけであっても、かなり条件としては厳しいところがありますので、なかなか農業者の人が着手しづらいというところがあります。

この次の11番に関しまして、農業拠点施設での加工品ですよ、これはね。農産物の新開発に関しましては、今、加工室でお惣菜と、それからお菓子の加工室、2室と、あとは飲食施設があるんですけども、それぞれの現場で、やはりお客様に飽きられないというような工夫をしております、季節季節の農産物をいかにして活用してということで、現場サイドで非常に頑張ってくれていまして、いろんな加工品を開発してくれています。飲食施設のほうも7月に

リニューアルいたしまして、できるだけ地元の農産品を、季節の農産品を活用したメニューづくりということで取り組んでいまして、この10月からなんですけれども、川村学園さんと連携をさせていただいて、川村学園の学生さんに冬野菜ということをお金がメインで、その野菜を主流にしたメニュー開発ということをお願いしています。その販売が12月ぐらいからになると思うんですけれども、新しい取組ということと言えるかどうか分かりませんが、こだわりのメニューという形で提供させていただこうと思っています。

本当に現場の人たちもお客様に飽きられない工夫というのは、もう全員がそれぞれの思いで考えてくれているような形になっていまして、特産品というのがちょっとないのが残念なところなんですけれども、常に違ったものを提供するという部分に関して心がけているというところなんです。

○熊田委員 21年4月から届出が許可制になるというのはどういった背景があるんですか。

○大炊委員 やはり安全衛生ですね。食中毒のおそれというのが一番多いと思うんですけれども、お漬物でも、やはり食中毒が何件か発生したということで、簡単に加工ということが難しくなったということだと思います。

○熊田委員 山内さんは、売場の提供側からすると、どんなことを考えられます、この8番から11番では。

○山内委員 8番でいけば、まず我孫子市さんの農政課がどういうビジョンがというのがないと言えないと思うんですね。セブンファームって皆さんご存じでしょうか。今、富里にイトヨーカ堂が出資して、農地を借りて、2ヘクタール。そこで何单品か作って、食農しているんですね。例えば空いている土地を有効活用するっていう、うちの会社じゃなくてね、イオンさんもありますから。そういうところにアプローチして法人としてやっていくのかどうか。我孫子市内で農家さんを募集しても、もう増えないと思うんですね。うちの田舎なんか、酪農家ももう60歳で子供がいなくて辞めちゃうところもあるわけですよ。もう続いていかない。そういう状況を考えて、我孫子市の農政課の方が、要はもうほかの力を借りてでも活用していきたいんだと。うちでいけば、亀有から竜ヶ崎まで8店舗あるんですね。2ヘクタールぐらいの商品であれば何とかこなせるのかなという、そういうことで今、富里と埼玉でやっているんですね。

加工所の話でいけば、今度、流山にセンターを造るんですけれども、ヨーカ堂はセンターが今ないんですけれども、生産センターですけれどもね。イオンはいっぱいあるんですけれども、そういう企業もどこかで集約してローコストでやっていきたいという考えでいけば、いつまで

も我孫子市内の農家さんを頼っていて存続できるのか。できないのであれば、もっと法人とかそういうところを募集してやっていくのかというのが一つですね。

○熊田委員 厳しいですね。

○山内委員 厳しいと思いますけれどもね。

農産物に関していけば、HACCP使用がどうしてもガイドラインになってきますので、厳しくはなると思うんですけども、でも、そこをクリアできれば安心安全で売り出せますんで、それはもうどんどん進めたほうがいいと思いますよね。

○熊田委員 これシティーセールスといいますか、PR側からすると、こういうことってどうなんですかね。何か若者の農業に関する興味は増えているとか話を聞くじゃないですか。それから、起業数とかもあれですかね、銀行さんのほうにも耳に入ってきたりするんですかね。例えば誰々が農業始めたよとか。

○川名委員 入ってこないですね。

○山内委員 農業をやりたいという人はいないですよ、聞いたことないですね。

○熊田委員 テレビ見ているとたまに取り上げられていますけれどもね、何かいろいろね、農業者さん。

○大炊委員 本当にそれは一握りで、よほど既存のやり方ではなくて特徴というか、もう本当にこれをやるんだってみたいなかなか強い意志がないと、ちょっと農業をやってみようかなくらいな感覚ではとてもじゃないですけども。今、新規さんも、今まで何名かいらっしやいますけれども、辞められたりとか、むしろ残っている方のほうが少なくて、その方たちも今後どうやって、どういう作物を作ったら収入が増えるかどうかというような悩みをお持ちなんですね。栽培技術的にも、やっぱり既存の農家さんの何十年とやって培われた技術があってこそその現状ですので、数年、四、五年の栽培技術で実際お客様が満足できるものができるのかというと、難しいところなのかなと思います。

○熊田委員 なるほど。そうすると、主な取組、外部協力者の欄にある、一番下のほうにある新規就農者の支援事業というものは、なかなか活用されない、見えにくいというところも結構存分にありそうですね。まあ既存業者もそうなんでしょうけれども。

○大炊委員 あと、新規さんの方たちがスタートするときには非常に夢を持っていらして、有機でやりたいというお話はあるんですね。あまりにも有機にこだわりすぎている部分があって、どうしても気候変動が激しい中では、最低限の農薬を使わざるを得ないというところでも結構かたくなに使わないんですね。そうすると、今回は全然駄目でしたみたいになると、それでも

生活が立ち行けばいいんでしょうけれども、実際そうではない部分があって、諦められてしまうというふうなことがありますので。やはり農業を経験された方たちの声も聞いていただければなとは思いますが、

○熊田委員 個人事業とかビジネスとしての農業にまだまだなかなかない状況ですかね。

○大炊委員 そうですね。

○熊田委員 門脇さん、どうですか。

○門脇委員 結局今、別に我孫子だけじゃなくて、日本中の問題なんで、農業の従事者の高齢化というのと。それで、もともと、私もほかの地域さんとかでよくあるんですけども、1人の農家さんが例えば持っていた土地を、もう今、自分一人じゃ耕せないから、半分は捨てますじゃないですけども、その半分以上を例えばJAさんが引き継いで代行したりとか、あと、そこをほかの若い就農者にあげたりとか、何か結局それで生産を減らしていくんですよ。減らすと、実は今度、JAさんの仕入れ先から外れちゃうんですよね。JAさんはある程度、一定量供給してくれるところと契約をするので、量を減らすと、今度、JAさんと付き合いがなくなったりするんですよ。それで、道の駅とか近いところに、小ロットで流してくれるようなところになると。そういう人たちってもう何か一生懸命働かなくていいやっていうぐらいの年齢で、その日暮らしていいやという人たちになってくるんですけども。今、日本中みんな、それで結局耕作放棄地があふれてきていて、今その利用が、先ほど山内さんが言ったみたいに、地方だと東京の大きな企業に貸したりとか、あと僕ちょっと前の会社でやっていたんですけども、IT系の企業さんとかの何ていうんですかね、レクリエーションと言うと失礼ですけども、畑を幾つかのスペースをもう契約してもらおうんですよ。そして地元の人たちに、若い人に、ちょっと体力の余っている人たちを集めて、そこを耕してもらおうんですね。生産計画とか出して、そこでできたやつをそのIT企業さんとかに定期的を送っていくという、その分のお金を企業さんから払うという。実はそれ普通にJAさんに出しているよりお金がいいんです。たまにそこにみんな社員が遊びに行ったりとかして、自分たちで野菜切ってバーベキューやったりとかもできるんですけども、そうじゃない間は、もう全部管理までお金で任せておいて、市民農園の団体版みたいなやつですよ。そういうことをやっている地域さんとか、僕その仲介していたことがあるんです。山梨のほうでそれをやっていて、山梨のほうに東京の企業さんを紹介したりとかして。まあまあ結構いい値段ですけども、企業さんは毎月とか定期的に野菜が届くので、それを社員さんがそのまま持って帰ったりとか、あとは何かお付き合いのあ

るお客様に配ったりとか。結構いろいろ使い道はあるみたいで、そんなことやっていたりとかしているんですけども。

だから、多分もうどんな施策を打っても農業が増えるというのはちょっと難しい気も。

○大炊委員 そうですね。一個人単位で動くあれではないですよ。

○門脇委員 ですよ。ちょっとないと思います。

今、青森でもリンゴ農家が減っている時代なんですよ。だから、それだけブランドの山林でも育てる人がいなくなっちゃってきているということになると、だから、今、若い人たちのすごいのはみんな何かITでやって、すごい人たちは農業をビジネスにするという人たちは一部、テレビで取り上げられている人もいますけれども、全然農業をやっている人じゃないですもん、もう。コンピューターでピコピコやってすごい人たちなんで。あの支援となると、もう全く別の話。ああいう何ですか、今の最新の農業みたいので。だって、よく聞きますけれども、年収の今、若い就農の人で200万とか300万ぐらいがやっただと聞くんで。それが台風がわかって来たら一発でゼロなんですってなっちゃうと、怖くてできない。県も一時、イチゴ農家をすごい増やしたんですよ、千葉県って、県全体で。東京とか脱サラしてイチゴ農家をやっている方たちが結構あっちの何でしたっけ、君津とか成東とかあっちのほうに結構増えていたんですけども、去年の台風でやられちゃって。だから、イチゴって元に戻すのに二、三年かかるらしいんですよ。だから、そういうのとかがあって、多分どんどんまた減っていく。

そういう時代なんで、農業に行く人って結構チャレンジだと思いますよ。昔に比べて甘くなってきた。

○大炊委員 ましてHACCPとかそういういろんな規制が、規制というかね、条件が厳しくなっている中で、もう個人の小規模でやるには難しいですもんね。

○熊田委員 なかなかやはりビジネスとかいう発想にならないんですかね。

○大炊委員 ちょっと二、三年前に埼玉のほうに視察に行ったんですけども、そこはやはり農福連携じゃないですけども、社長はIT出身の方で、自分は栽培技術のノウハウはないんですけども、地元の方を雇って、ノウハウをもらって、働く人は福祉関係の方たちが単純作業をやって、もうちゃんと売り先はきちんと決めて、そういう流れをつくるのがその社長とか一部の経営者であって、施設も、お金は持っていますから、ここで施設を造って人を雇って、ノウハウだけを地元の農家からもらうという形でやっていましたよね。

○門脇委員 今、湘南にできましたよ。だから、何だろう、見た目はすごいビニールハウスがばあっとできてあれなんですけれども、実は障害者施設なんですよ。



○熊田委員 なるほど、なるほど。

○門脇委員 障害者の方たちがその作業をするというふうに入っていて、ですけども、管理している人たちは東京の企業さんで、もう本当にコンピューター管理で。だから、言い方は悪いんですけども、その障害者の方たちが頑張ろうが頑張らないが、基本的には出来上がるような仕組みになっているんですけども。ただ単純作業のお手伝いというのがやはり必要なので、人件費がかからないというところに多分よく、たしかね、湘南、16号からちょっと入ったところにできて、前、何かチラシを見たことがあるんですよ。

○熊田委員 そういう就労支援につながる動きもあるのであればね、そういうのはありでしょう。

○大炊委員 それが我孫子で可能かどうかということになると、やはり一番最初のスタートに戻りますけども、広い農地が必要になるわけですよ。我孫子の場合にはいろんな地権者がいる中で、みんなが賛成してくれないとまとまらない、広い農地が必要ですので、中で一番真ん中にいる方が俺反対だということになると、話がもう頓挫しちゃう形ですよ。もしそれをやるのであれば、きちんと市のほうで説明をして、納得してもらおうという作業が必要だと思います。

○門脇委員 結局お金に、そのビジネスでやっている人たちって、どっちかという結局、形上、1次産業ですけども、それをそのまま出荷するんじゃなくて、もう完全に加工に切り替えて売っているという人たちのほうが実は今地方であって、農業ですごいビジネスをしている人はみんなそうですね。

○熊田委員 そうですよ。

○門脇委員 私、何年か前にお話しした山形か何かでやっている人も、イチゴをやっているんですけども、イチゴを作っているんですけども、イチゴを一切売っていないですよ。だから、行くと産地何とかで売っているんですけども、正式にあの箱に入れて出荷してなくて、実は全部イチゴをワインとか何かね、加工品に全部変えるために作っているんですよ。多分そのままイチゴとして出荷するのは何か大変らしいんですよ、箱にきれいに詰めて、傷がつかないどうのこうのとかなって。それって結構面倒くさいらしくて、だから、もう最初から加工品に切り替えていて、金額をがっと上げて。

畑と、さっきのここにも出ていましたけれども、加工所をセットでもう運営しているところももうけている、もうけていると言っちゃいけないけれども、ビジネスとしては成功しているみたいです。やはり製造を入れると、利益率が上がるじゃないですか。

○熊田委員 いわゆる農家というところからちょっとね、一つ進んでいる。

○大炊委員 工場的な感覚になっている。

○門脇委員 そうですね。材料まで自分たちで作っているというだけで。今、米農家やりながら酒蔵やっている人も増え始めていますからね。酒蔵さんが米仕入れているんじゃなくて、自分のところで畑をやって、あの山田錦を育てて、米も育てて自分たちで酒造ってやっていて人たちも出てきているんですよ。そうすると、すごいやはり利益率はめちゃくちゃ上がったらしいですよ。

○大炊委員 あと、だから、お餅を作る加工所を造って、自分のところで取れたお米でお餅にして、逆にそれを各地の直売所に納めているというのもありますよね。

○熊田委員 ITの話も出てきたので、私もちょっと意見、話しますと、物づくりの企業なんかも、国の補助金なんかを活用するのに、やはりIoTと言って、インターネットと物をつなぐという仕組みが結構あるんですよ。そこのものづくり補助金の採択企業の何割かは農業に関する採択者だったりするんですよ。やっぱり遠隔地から畑の状態を見て、人口的に水をスプリンクラーで回すような仕掛けとか、そういったものをうまく補助金を利用して、1,500万円とかという補助金が出ますから。それから何か、畑を使わなくてもレタスが育てられるというメーカーありますよね。ああいった方向で、何かうまくビジネスを必ず結びつけるような形になっているところを見ると、我孫子でもそういう成功事例をもっともっと増やせるといいなという気がしますよね。そういう感じだと銀行も支援しやすいじゃないですか。

○川名委員 そうですね。これは施策はあって評価はね、面積が増えたとか減ったとか、人数が増えたとかでやるのでなかなか難しいけれども、実際に農業の方がね、今は、だから安心安全なやつで無農薬だとか、こだわりのある人とかね、いるかもしれないけれども、ビジネスに結びつくかどうか、何かいろいろあって。ここは、何ていうかな、農地を耕作放棄地にしないようにするために維持するだけなのか、あるいは農業者を増やしていきたいのか、市としてね。その辺が難しいと思いますが、この加工品のやつも達成になっているけれども、じゃこれ加工品やったやつが本当にビジネスになっているのかどうかとかですね、そういうことを考えると、難しいのかなと思いますね。

○熊田委員 そうですね、みやま食品さんもやめちゃったりとかして、結構ふるさと産品につながってくるようなところも見えたりするんで、なかなかここは、そうするともう山内さんが言われたとおり、農政課がどういうビジョンを持っているんだということになりますよね。

○川名委員 だから、続けていきたいという人に対しては手厚くしてあげるんであればね、それはそれでいいんだと思いますし、増やしていくというのはなかなか今難しいのかなと。

さっき言った、外から入ってきてビジネスになるようなやつは、我孫子に来ればそういうのができるねと、いろんな支援が充実しているねとなれば、外から来ることもあるんでしょうし。

○門脇委員 ある程度そこは用意しないとイケないかもしれないですよ、受皿と、あと多少の補助というかお金、協力の部分。

さっき熊田さんが言ったみたいに補助金の、要するに遠隔操作というのは、この間、楽天さんとか、あと仕組みとしてはドコモさんがやっていたりとかしています。個人でもできるんですよ。個人で契約をすると、自分の畑を買って、地方に。そうするとカメラで見れるんですよ。それで自分でこうやっておもちゃみたいに水まくとかやるとやれるのが、楽天さんだと思うんですけども。その仕組み自体がドコモさんが今IT農業というのをやっていて、今、農薬の自動散布とかもできる、ドローンを使ってできるようになったりすると、実は畑に誰も人がいないのに、そのうち今度、トラクターも無人で動きますよ。

○熊田委員 ああそうですね、人工衛星でね。

○門脇委員 人工衛星で動く、もう出ていますよね。

○大炊委員 実際にもう稼働しているところがありますからね。

○門脇委員 北海道にそれすごい実験場があって、「下町ロケット」でもやっていたけれども、もう今あの時代に来ちゃっているんですよ。そうすると、畑が誰もいないのに勝手に機械が動いたり、ドローンが飛んで、物が育つ時代に来ちゃっている状況があるので。だから、決して農業家さんというか、それを増やすことが正しいのかというと、ちょっと今。

○熊田委員 そうですよ。

○大炊委員 多分この施策を市のほうでスタートしたのは、まだここまで進んでいなくて、農業が高齢化が進んできたよとなったときに、それをじゃ食い止めるためにどうしたらいいんだということの指標だと思うんですよ。でも、時代がどんどん進んでいて、もう高齢化も進んでいる中で、これではとてもじゃないけれども追いつかないというのが現状だと思いますよね。むしろじり貧になっていて。今やっている方がいつまでできるのかということまで本当は来てしまっているんで、それを、だから頼りにやっていたら、もう本当にこの我孫子の農業施策も厳しいのかなと。ほかの視点で切り替えていかないと、本当に難しくなるのかなという。営業しながら思っているんですけども、やはり今まで一生かけて農業技術を持っている方たちのノウハウというのはすばらしいものがあって、1年、2年では習得できるものではないので、その方たちが元気なときに何だかそういう農業技術を活用できるような方法とかいうのも必要なんじゃないかなと。

いろんな企業化とかいう形の取組が全国的にあると思うんですけども、我孫子がそれができるのかということをもとに確かめて、農地の問題が非常に大きいんですよ。やっぱり北海道で無人でトラクターができるというのは、広大な農地があるからということで。我孫子はもう絶対それは無理ですので、だったら、我孫子では何ができるのかということ考えたとき、やっぱり手賀沼があったりということで、観光と結びつけてやっていくということも一つなのかなど。

都心に近いという立地条件で、都心の方が非常に農業体験とか自然体験をしたいという取組の中で、農業と絡めてやっていって、都心の人に来てお金を落としていってくれるという方法も一つのやり方なのかなど。

○熊田委員 この辺、観光農園あまりないですもんね。

○大炊委員 そうですね。

○門脇委員 もうかるらしいですよ、観光農園。

さっきのあれですけども、イチゴのイチゴ狩り農園は千葉県って日本一なんですよ、観光農園の数ですね。だけれども、イチゴの生産量の1位は栃木県ですから。栃木、福岡とかで、千葉は8位とか9位ぐらいなんですよ。ですけども、観光農園は日本一です。

○熊田委員 柏辺りでも500円ぐらいでね。

○門脇委員 そうです。利根川沿いに柏も1個、クラモチさんというのがやっていて、ありますし。やっぱり県全体だと、東京から近いので、東京のお客さんがいっぱい来るとですよ、イチゴ狩りに。だから圧倒的に、千葉は日本一の観光農園なんですよ、イチゴの。

○熊田委員 東京から近いですからね。

○大炊委員 ちょっと現場の人間としてなんですけれども、この指標に達成できたかできないかということにこだわらず、今後どうしていかなきゃいけないのかという視点に市のほうも切り替えていただきたいなということですかね。これを、指標をつくったときの状況と、もう本当に進んでいますので、このままで達成できたとかできないではもう済まされない状況だと思いますので。本当に抜本的な考え方を切り替えていかないと。観光にもし切り替えていくのであれば、農政課だけではなくて、商業観光課さんとか、あと手賀沼課さん、あそこを農業拠点施設という、親水広場を拠点施設で人が集まる集客の施設としてやるのであれば、農業だけではなくていろんな、縦割りではなくて横軸であそこを盛り上げる一つの課をつくってもいいのではないかなというふうなことを現場のほうでは話が上がっているところで、新たな課ができてもおかしくないのではないのかというような話もしています。

○山内委員 KPIの数値が広さとか人数なんですけれども、企業は生産性なんですよね。要は生産高が増えたか増えないか。それと、農家さんは減ったほうが、いや、人数が減ったほうが何でしょう、オートメーション化してやっているという投資の指標でもあるし、それと、持続可能でいけば、別に土地は少ないほうがいいんですよ、実はね。少なくても、3回も4回も収穫できたほうがいいわけです。だから、やっぱりちょっとこの指標が古いのかな。多分、民間でこれでお金貸してくださいって言ったら、ゼロですね、ゼロ。多分進めたほうがいいと思う、持続可能していくんであれば。

○熊田委員 そうですね。SDGsという取組も検討していかなくちゃというところもあるので、確かにそうかもしれませんね。

皆さんの意見、多様ですごく興味深い話いっぱいあるんですけども、生産者側の話としての8番から11番、それから今度、所有者側からとして12番から続いていきますけれども、これは有識者の評価、ここまで聞くと「順調とはいえない」という判断にどうしてもならざるを得ないと。それに至っては、スピード感であったり、トレンドだったり、今の情勢に合わせていきたいなというところはありますけれども、これ評価を2つに分けることはできないですかね、今の時点では。

○事務局 分けても大丈夫です。

○熊田委員 大丈夫ですか。

ちょっと8番から11番はまず「順調とはいえない」という評価で、まずよろしいですかね。生産者側に対するアプローチ、取組として。

続いて、12番から、今度は消費者側のほうにちょっと目を向けていきたいと思います。12番があびこ型「地産地消」推進協議会会員数と、それから、学校給食への地元野菜の供給量、13番が学校給食への地元野菜を供給した回数、農業拠点施設の年間延べ利用者数と。

これは先ほどありましたが、四十何番とかというところともまたつながってくるんですけども、これについては、もう、また大炊さんになってしまうんでしょうかね。14番とか、それから、山内さんも12番なんかはどうですかね。

大炊さん、どうですか、年間延べ利用者数、達成となっていますが。

○大炊委員 はい。ここ一、二年はおかげさまで増えてきていまして、また、このコロナ禍でステイホームですか、進んでいる中で、非常にやっぱり地元の農産品の、安心安全農産品をお求めになられているお客様は非常に増えていまして、むしろ供給が追いつかないようなところがありますので、その供給さえ維持できれば、もっともっと右肩上がりになるんですけども、

先ほどにあるような高齢化ということがありますので、それがいつまでも続けられるのかということに不安がありますので、それを解決するすべを考えていかなきゃいけないのかなと思っています。現状は達成しております。

○熊田委員 そうすると、あとは遅延が2件で、13番は変更されていますので、13番か、ごめんなさい。

12番は達成率でいうとちょっと状況的には非常にまずいのかなという感じがありますけれども。

○大炊委員 でも、ここで地産地消推進協議会さんのお話をお伺いしましたら、援農ボランティアの養成講座というものを毎年やっているそうなんですけれども、今回応募者数が非常に、今までになく多かったということだそうです。コロナ禍で、やはりこう家にいてもあれなんだろうということで、何かしたいという方と、それから非常に今まで農業には興味はあったんだけれども、時間が持てなかったんだけれども、ここで時間が持てて、ぜひ参加したいという方が増えて、非常に大勢の方が養成講座に参加して下さったということを知っています。興味のある方はいらっしゃるんだというのは、また、本業の仕事が忙しくてなかなか時間が取れなかったり。今までは定年された方が、リタイヤされた方が参加していることが非常に多かったんですけれども、定年が延長とかいう形でなかなか少なかったんですけれども、今回コロナで現役の方も参加できるような形になってきて、やっぱり一般消費者の方も農業に関心を持たれている方はいらっしゃるんだということが分かったところです。

○熊田委員 なるほど。

そうすると、この地産地消の推進と農業にぎわいづくりという側面からすると、あながち間違っていないというか、時代に合った形で変化しながら進んできているということでもいいですかね。

○大炊委員 そうですね。

○山内委員 企業はボランティアという言葉に非常に弱くて、要請があれば断ることはしないですよ。だから、やっぱり市のほうがですね、積極的にアプローチをかけるということと、この推進協議会がもうちょっと何をしているという部分を明確にして進めれば、参加する方は増えるかもしれないですね。それで、その参加してくれた方から本会員様を育成していくみたいな形に持っていったほうが無難なのかなと。いきなり本会員になるというのはちょっと、すごいチャレンジですよ。だから、この右側のボランティアが増えているという部分をもっともっと増やして、100人より200人、200人より300人という形で増やして、その場を与えて、そ

れでこれ書いてあるように料理教室なんかをやるという部分で、着地はお手伝いをしてもらって、最後は食事会。自分たちの作ったもので食事会するぐらいのイメージなのかなという。

○大炊委員 そうですね。

○山内委員 その施設はここを使うのかという形でやっていけば、連携していくのかなという気はしますね。

○大炊委員 ボランティアもそうですけれども、今まで援農ボランティアをやった方の中で、お一人なんですけれども、就農された方もいらっしゃるんですよ。だから、早期退職をされてボランティアをやって、ある程度農業の技術を身につけて、それで自立されているという方が、お二人いらっしゃいますね。

○川名委員 いいですか。ちょっとすごく非難があるかもしれないんで、ちょっとあれなんですけれども、地産地消って、日本のものを日本国内で消費するのはいいんじゃないのかなと思うんですけれども、例えば我孫子のものを我孫子で地産地消するというのは、どういった目的になるんですかね。それはやっぱりすごくいいことなんですかね、ちょっとよく分からないんですけれども。もう余っちゃってしょうがないからそこに消費しようということではないわけですよ。本当は外にどんどん売れたほうがいいわけですよ。でも、どこでもみんな地産地消と言って、狭いマーケットで何か消費しようということを一生懸命言っているわけですよ。地元のは地元で食べようよというんですけれども、それを一生懸命やっでどういう効果があるのかなというのがいまだにちょっとよく腑に落ちないというか、腹落ちしないというんですかね。

○熊田委員 気持ちいいんじゃないですか、言いたいんですよ。

○川名委員 何となく言葉はいいからね、何となく地産地消よねってなるんですけれども。ちょっとこう、もっと本当はね、外に売る、貿易じゃないけれども、外にどんどん売っていたほうが全然いいわけですよ。

○大炊委員 内向きになっているとおっしゃっているんですね。

○川名委員 だから、もうこんなにいっぱいあってすごくいいのを売れないから中で消費、もう学校とかそういうところがあるんだから、使いましょうよというだけなのか、本当はね、我孫子の野菜はおいしいんだから、食べましようよ、それが外にも受け入れられていって、外にもどんどん売れていくっていう、つながるんであればいいんだと思うんですけれども。これ一生懸命学校で食べましようっていって、それで終わっちゃうというか、広がりがあまりないんだなっていつも思うんです。

○山内委員 多分、地元愛ですね。

○川名委員 地元愛ね、なるほど。

○大炊委員 あと、以前、市長がおっしゃっていたのは、子供のときに学校給食で地元の野菜を食べて、地元の野菜のおいしさが分かればずっと大人になっても買い続けてくれるんじゃないかというのと、それとあと、家に帰ってお父さん、お母さんに今日は我孫子産の何を食べておいしかったよとなると、じゃそれを買に行きましょうってお母さんが、また地元のものを消費してくれる、そういう循環を考えての学校給食だということは伺ったことはありますけれども。

○川名委員 その割には、でも我孫子産のお野菜を置いている面積だってまだまだ、この間、お母さんに行ったら、我孫子産のあったんですけれども、売場面積すごい少ないですもんね。

○大炊委員 今スーパーさんでもみんなインショップで地元の野菜コーナーを置いてくださっていて、おかげさまで生産者とすれば、1か所だけじゃなくていろんなところでさばけるので、リスク分散じゃないんですけれどもね、作ったものが回る。1か所だけだとどうしても売れ残るんですけれども、それを分散すると、何とか作ったものがはけていくというような、そういうことが起きていまして、農家にとっては非常にありがたいことではあります。

○熊田委員 ただ、13番だと学校給食への供給数は減っていて、何で減っているかという、量が足りない、出荷量を増やす必要があるということになっているんですかね。

○大炊委員 学校のほうでは少子化で、1回の注文数がだんだん減っているところなんですね。1学校が月2回ですので、その枠から考えていると減らざるを得ないものですよ。その回数を増やすとそれが増えることにつながるんですけれども、既存の業者さんとのいろんな兼ね合いで。

○熊田委員 なるほど。

門脇さん、何か訴えたそう。

○門脇委員 僕のほうは別に、今回はあれですけれども。僕も、でも、どっちかという川名支店長と同じ方向かなという。

○熊田委員 なるほど。やっぱりどうしてもこのグループはビジネスだよ。

○門脇委員 うん。やっぱり地産地消ってポジティブというか、いい言葉だと僕は思うんですけども、何だろう、もし余っている野菜を食べているんだしたら、それはネガティブですよ。普通、地産地消って、その土地のすごい有名な産品をちゃんと子供も食べておいて、うちの町はこれが有名なんだとか、これによって経済がすごく成り立っているんだというのを分か



るために食べたりとか、名産品を食べたりとか、何かそこに伝わる、食文化を体験したりするために給食に出しているというのが多分普通なんですよ。

だから、となると、あと、これ僕も不思議なんですけれども、分からないんですけれども、給食に出すより大田市場に出したほうがよくないですかって、農家さんって、売れる単価が。給食に出したら安い、分からないんですけれども、給食って安いじゃないですか、もともと。給食業者さんに卸すよりも東京の市場に、よく千葉県内だと、例えば銚子のって、町が今大変というか、すごい沈んでいるじゃないですか。だけれども、漁業関係者だけはものすごくもうかっているんですよ。すごい。それで何でかっていうと、あれ全部築地に流すんで。地元のを卸さないですよ。地元よりも築地のほうが高く買ってくれるからっていう、それは大間のマグロも一緒です。だから、大間で大間のマグロって食べられないですからね。もちろんゼロじゃないんですけれども。それをやっぱり大間は、地元、要するに大間のマグロを食べに行こうって来ちゃう人がいるんですよ。そういう観光客とか来た人たちをちゃんと満足させるためにって、今は地元で食べられる量というのをちゃんと確保しているみたいなんですけれども、それまではもうあの1本ぼんと釣ったら、それ築地に出せば、何百万とか、下手したら1,000万とかで買ってくれるわけじゃないですか、あのマグロ1本。となったらもう、みんなそれ死に物狂いで取っているわけですよ。そうすると、地元、安く卸すなんてふざけんなって話になっちゃうわけです。

だから、地産地消って、結構何のためにやっているのかということと、あと、生産者さんにプラスにならなきゃいけないと思うんですけれども、今プラスになっているのか、ちょっと僕がちょっとこれを見ている限りは、供給回数が多いほうがいいのかも分からないです。多いほうがいいのか分からないなと思って、供給量が多いほうがすばらしいのか。もしかしたら、いや、子供に食べさせるのはないぐらいの人気の、もう町の例えば大田市場に持ってかれちゃっているんだよというほうが何か我孫子市としてよくないですか。分かりますか。地元の子供に食わせるのはもう残っていないんだよっていうぐらい売れちゃっているというほうが町の農業としては何か正しいというか、うれしいと思うんですけれども。

○大炊委員 極端にいうと、ちょっと福祉的なあれがあるかもしれないですよ。決して学校給食だから、給食費が安い中でやりくりしなきゃいけないので、やっぱり今回はすごくいいものだから高く売りたいってなっても、結局、栄養士さんが今回高いからいいよって、逆にそんな感じのところがあるんですよ。本当に月2回だけなので、本当にいいものを子供たちに食べてもらいたいんだったら、ほかの日の食材を削ってでも、その日は高く買ってもらいたいん

ですけれども、実際、市場から入れたほうが安いから、だったら市場にしちゃうって、極端な話、そういうこともあったりするんですよ。そうすると、何のために学校給食に納めているのかというところを、原点をもう一回見直して、逆に学校のほうで買い切れなかったら、それを市のほうで補填するとかいう形で、必ず農家さんに還元していかないと、現場でも、農業者の人がもうちょっと高く買ってくれるんだったら学校給食に納めるんだけどっていう話もあって。最初はまとめてはけるから、買い取ってくれるからいいという話だったんですけども、同じ品物でも、ちょっと季節がずれたりすると、最初に注文を受けた農家さんは高いんですけども、次に作ったときは、私のほうが安いから、どうしてこうなるのみたいな、やっぱりそういう話が、値段の問題でトラブルがあったりとかします。

○川名委員 本当に、私なんかそんなに分からないけれども、やっぱり野菜も取れたてが抜群に一番おいしいらしいですよ。だから、地産地消をやるんだったら、もうやっているんですよけれども、道の駅とかね、その程度かもしれないけれども、朝取りのやつを誰々さんが作りましたとやるぐらいのがちょうどいいのかなとは思いますが。やっぱり外に売っていかないと伸びがないなと思います。

○山内委員 だから、我孫子市内で消費するという考え方と、今言ったように外に向けてというね、我孫子産という部分ね。我孫子の地産地消でいけば、もう生産量増えないですよ、そんなにね。だって、学校だって限定されているし、子供もこれから減っていくわけでしょう。だから、やっぱり市内で消費する部分と外向けの2つできちっと計画組んでいかないと、国はお金貸してくれないですよ、これね。内々でやっているんだったら、自分たちでできるでしょうってなっちゃいますね。外に出て行くから、じゃ5億出しましょうというのが論理だと思うんですよ。やっぱりチャレンジじゃないけれども、果敢に本当に我孫子産のものをやってみようと思ったら、やらなきゃいけないのかなと。

○熊田委員 分かりました。

最初の話から聞いて、「ほぼ順調」あたりでもいいのかなんてちょっと思いましたけれども、とてもそんなふうには評価出せないですね。

○川名委員 ただ、これはね、施策としてあるわけですから、これはこれで、根本の問題とはまた別に施策としてあるから、評価は評価で。

○熊田委員 少し辛口でもというお話もいただいております。

○門脇委員 これはこれで評価は評価というか、この数字はいいと思うんですけども、そもそもこの数字が必要かっていう今話をさせていただきなので、これはこれでいいというか、これ

で一生懸命やっているんだったらね。

○川名委員 推進をしていきましょうって中でこれをやっていたわけですから、それはそれで評価としてはいいんじゃないかと思います。

○熊田委員 附帯意見がかなり出ていますし、そういう意味だと、やっぱりビジョンがないので、戦略が見えないと。戦略がないから、戦術も間違った方向に何かどうも来ちゃっているよなところ、やっぱりこの攻めに転じてはいかがでしょうかというところで、農政課にアピールしたいところですかね。

○門脇委員 子供たちにこれ食べさせている理由とあって、ちゃんと説明しているんですか。ただのおいしいとか、そういうんじゃないかと。

○大炊委員 それに関しては、ある学校では、自分たちで、何ていうんですか、DVDを作ってくれて、我孫子の農業が危ないみたいなものを自分たちで考えて、高齢化になっているので、みんなで地産地消で地元の野菜を食べましょうとか、そういうようなDVDを作っていたりもするんですよね。全ての学校がそうとは限らないんですけども、そういう先生方の働きかけでやっているところもあります。

○門脇委員 でも、それが多分さっき僕が言ったことで、申し訳ない、ネガティブとさっき言っちゃったんですけども、でも、農業が危ないからみんなで食べてお金を落としましょうじゃないけれども、その食べる分、また農家さんが頑張ってもらいましょうというメッセージだったら、それはそれでちゃんと伝えればいいと思うので。だから、何ですかね。それが必要だと思うんですよ。

○川名委員 それはそうだと思いますよ。私も日本全体でね、自給率が悪いとね、日本のものは日本で食べようという気持ちは私あるんですよね。それと同じようなことで、我孫子でもやっぱりそういう我孫子の農家さん助けましょうねという思いがあるのであれば、それはそれですごく大事かと思う。

○門脇委員 それをちゃんと伝えたほうが。言い方は悪いですけども、それだとおいしい、まずいは関係ないですよ。地元で消費して、やっぱり農家さんの存続をしてあげるためにという、でも、そういうことですよ。だから、それをちゃんと、もちろんそう伝えなきゃいけないと思うんですけども。さすがに子供に申し訳ないんですけども、我孫子で作ったのと北海道で作ったのと、味がどっちがいいかって分かるわけじゃないですもん。

○大炊委員 強いて言えば鮮度がいいということで。

○熊田委員 分かりました。

最初に戻りますけれども、附帯意見としてはかなり出ていますけれども、ボランティア養成講座をやっていたり、それから、給食の供給回数については遅延ですけれども、拠点施設には人が増えているというところで、この施策に対する取組については、ほぼ順調と、順調とはいえないの間ぐらいかなといったところで、ほぼ順調にしてもいいかなと思います。ただし、時代とスピード感に対するところでは、まだまだ改良の余地があるなというふうな意見が多数出ていますので、ビジョンと、それから戦略、戦術について、やっぱり考え直してみるのはどうでしょうかというところでよろしいですかね。ありがとうございます。

では、先に進めていきましょう。

これで基本目標1が終わりましたので、次に、基本目標2、我孫子の魅力があふれ、にぎわいを生むまちづくりというところで、定住促進につながる取り組みの充実、15番、若い世代の住宅取得補助金申請受付件数と。

○事務局 資料を配付させていただきます。

○熊田委員 追加資料ですね。それから、16番の住宅リフォーム補助金活用件数、17番、メディアで取り上げられた回数と、この3つについてまず検討していきたいと思います。

15番については、今、事務局のほうから資料が出ております。16番については、前回の厚めのA4の資料ですか、これの19ページ、16番の住宅リフォーム補助金制度の実績というところに出ていますので、それを参考にしながらお願いします。

今配っていただいたものについて、事務局のほうでちょっと説明いただけますでしょうか。

○事務局 こちらは建築住宅課のほうで取りまとめている若い世代の住宅取得補助金の利用者へのアンケート結果で、令和元年度の集計結果です。いろいろ質問項目はあるんですが、特にご確認いただきたいのが、裏面の問6が住宅取得に当たって我孫子市を選択した理由について、なぜ我孫子を選んだかということと、問7ですね。そもそもの話として、この補助金が我孫子市内に住宅取得をするきっかけになったかというところで、3択になっているんですが、③番の「補助金がなくても我孫子市に住宅を取得した」というのが圧倒的に多いんですね、351件、79%。そうすると、そもそもこの制度が必要なのかという話が出てきてしまうかと思うのですが、総合的にこちらのアンケート結果もご覧いただいたのの評価、ご意見をいただければと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○熊田委員 今説明いただきましたけれども、それについて15番ですね。実績が446というところで目標値に対する状況でいけば達成というところになっています。それから、16番、住宅リフォーム、リフォームのほうは……。

○事務局 リフォームは実績のみになります。

○熊田委員 これも104%というところで達成はしている。それから、ちょっと切り口が変わりますけれども、メディアで取り上げられた回数と。この3つを総合的に見て、今のアンケート結果も踏まえてというところになります。どうでしょうか、この辺は住宅ローンとかその辺につながってくるところにもなるのかなとは思いますが、補助金のあっせんみたいな形で川名さんのところもやられたりはするんですかね。

○川名委員 すみません、ちょっと実務は分かりません。実際、分からないけれども、家を買うときに補助金がね、購入金額の半分くらい出るんだとしたら、それは魅力ですけども、多分違う要因でみんな決めて、その制度があるなら使って、ああよかったねというような、やっぱりすごく普通の心理なんじゃないかと思えますよね、このアンケートと照らし合わせて、そのとおりなんだろうなという気はしないでもないかな。

○大炊委員 今、うちの会社の厨房で働いてくださっている40代の方なんですけれども、湖北のほうに持家をして住んでいるって、我孫子に来て3年なんですけれども、本当に我孫子っていいところだって、私が望んでいたものが全てあるっておっしゃってくれていて、それが何がというと、自然環境の良さと、静かで住みやすいということをおっしゃっているんですね。それはそれぞれの価値観もあると思うんですけども、我孫子は自然環境もよかった、そういう地元の中の農家さんの人情味とかそんなこともおっしゃっていて、それをいろんな方法で発信して、都心から我孫子のほうに移り住むということのきっかけになればいいのかなと思いますけれども。

○熊田委員 15番は住宅取得というところですけども、16番についてはリフォームというところで、また視点が違うのかなというふうには思いますけれども。

どうなのでしょう、このアンケートを見る限りだと、この施策、事務局がご説明ありましたとおり、この15番の施策にあるなしにかかわらず、大炊さんの実際に住まわれた方の意見なんかも聞くと、評価とは関係なくこの件数が出てくるのかなという感じですけどもね。

○大炊委員 実際この補助金があるから移り住んできたという方もいらっしゃるんですか。

○事務局 アンケートの問7にもありますとおり、①番の「補助金があったため我孫子市の住宅取得を決断」と回答した利用者が19件、割合でいうと4%となっています。この数字でよしとするかといったところです。

○山内委員 そもそも近隣と比べて、この17万が多いのか少ないのかがちょっと分からないのと、あとほかにエコ補助、ありますよね、いろんな建物の……。

○事務局 取得のときですよ。

○山内委員 断熱するとか何とかって、あれはまたあれで国に申請すれば出ますよね。だから、多分この17万だけじゃなくて、バリアフリー含めているんなものを重ね合わせて頂いていると思うんですけども。

○事務局 そうですね。恐らく利用者の中には住宅リフォームの補助金とかも、空き家を利用して引っ越される方なんかは併用してというところもあると思いますね。

○熊田委員 このアンケート、非常にいいですね。我孫子を選んだ理由がもう明らかになっていて。ただし、15番についてはあれですか、今年の6月末時点で72件しか申請がありませんねというところを見ると、今年度については難しいかもしれないですね。

○事務局 そうですね、この時点の伸び率でいくと、鈍化しているように見えますね。

○熊田委員 前年度までが十分に実績出ているからというところもあるのかもしれませんが、もう一件、17番目ですね、メディアで取り上げられた件数、秘書広報課のほうでありまして、目標数に対して127回というところで、151%の達成はしている。

○事務局 ただいま参考にお配りさせていただきました資料は、令和元年度に新聞に掲載された我孫子市の項目を一覧で載せております。

○熊田委員 分析してみないと分からないところはあると思うんですけども、門脇さん、ぱっと見、何かありますか。

○門脇委員 これ僕ちょっと非常に言いづらいんですけども、これただのクリッピングなんですよ。要するに我孫子市っていう名前が出たやつだけ載せているだけなんで、それが移住定住につながった記事かという、関係ないのも結構あり、大半だと思いますけれども。例えばそういう、先ほどの補助金が出ていますとか、そういうのがニュースになればまだいいんですけども、そうじゃないから。我孫子って名前が出ただけのことをやっていますよね。例えば出身のスポーツ選手がどうこうとか。だから、それでいくかというところと違くないですかって。これは単純に広報さんが常に取っていると思うんですよ。どこの市町村さんもみんな取っているんで、その数字を出しただけなんで、何かそれが達成かどうかという、また別の話かなという気はしますよね。

結局、本来は、こういう政策やるときも、例えば観光とかの、何か自分たちが仕掛けたものがメディアに取り上げられたかどうかというのが指標なんですよ。例えばこんなイベントを新しくやりました。そのイベントがどれだけの新聞社さんとかテレビ局さんとかに取り上げられたかというのが普通、成果なんですけれども、これは移住定住の活動をした中で取り上げら

れたものかというところから、だって、伊達直人からランドセルが届きましたとか、これ伊達直人さんの評価じゃないですかっていうね。我孫子じゃなくて柏とか流山に届いても別にいいわけで。偶然、我孫子にタイガーマスクがいただけの話かもしれないしとなると、じゃうちの子、ランドセルただでもらえるかもしれないから我孫子市に移住しようとはならないじゃないですか。だから、そもそも何のためにやっているんだという問題が多すぎて、ちょっと何か時代があれですね、地方創生って、もう5年もやっていると、こうなっちゃうのかなっていう。今ね、総計も大体3年とか短いスパンでやっていこうという話が上がっている中で、今全体的にずれてきているのかなというのが徐々に感じざるを得ないかなと。

結局、企業で、皆さんそうだと思うんですけども、投資したというか、仕掛けた分の成果って絶対求めなきゃいけないですけども、だから、ある部署とかが幾つかあって、その部署が仕掛けた成果をよその部署の成果まで、うちですって言えないわけですよ。でも、これ、結局全部署の仕掛けを全部、移住定住で取り上げられましたってやっているから、それは違うんじゃないかという。

だから、これを目標として達成しているから、それは達成でいいと思うんですけども、そもそも何のためにこれやっているんですかって。普通の作業だと思いますよ、クリッピングって。絶対、みんなこの市町村さんもやっています。目標値にしているかどうかは別としてですけども。

○山内委員 本来は、ここに出たものが最後の最後までいって、そういう観光で来た人が増えたのか減ったのかというのが多分、欲しい情報なんですよ。

○門脇委員 例えば近辺だと流山とか、昔、一宮が全国で三本指に入る移住の数を記録したとか新聞に出たんですよ。それだともうすごいじゃないですか、町役場の成果として。それだったらもう、成果ですって出せるんですけども、ちょっとそのところかなと。だから、何も言えないです。ただ、目標値は達成しているから、それはそれでいいんじゃないですかっていう。結局これ取り上げられた回数って書いてありますから、なにで取り上げられたか書いていないから。

○熊田委員 施策と評価の基準が合っていないことですね。

○門脇委員 あと、こっちのさっきのアンケートもすごい、これかなりきつめなアンケートだなと思って。これ計算しちゃったんですけども、17万円を446世帯に払ったら7,500万ぐらいになるんです。ですけども、19件だけでしたらすごい浮きますよねっていう、税金がっていう。19件のこの人たち。多分、この19件の人もしかしたら調べていたのかもしれないですよ。

ね、この周辺の、柏だったら幾らもらえるんだろうとか、流山だったら幾らもらえるんだろう、調べていた人たちかもしれないんですけども。僕も何十年か前に住宅取得していますけれども、ほとんど住宅メーカーさんが教えてくれるんですよ。今やると国から幾らもらえますとか、例えば我孫子市さんから幾らもらえますよというのを。それって多分、住宅メーカーさんとか不動産屋さんが全部知っていて、それを情報でくれるんで、建てる人が多分、全部自分たちで調べているケースって少ないと思います、流れとして。と考えると、ここの評価って、もしかしたら我孫子市でマンションを建てているデベロッパーさんとか、あと住宅を造っている、いわゆるハウスメーカーさんとかにちゃんと浸透しているかどうかという。もしかしたら中小の小さいところとかだと知らないケースはないと思うんですけども、地元の不動産屋さんとかメーカーさんだとほとんど知っていると思うんですけども、それ売りじゃないですか。リフォームなんか絶対そうだと思いますよ。見積りでこれぐらいですけども、今申請すると我孫子市さんから幾らもらえますよ、だからやりませんかというのもセールスだと思うんで。

だから、何かちょっとそこら辺が、もしかしたら個人の、何だろうな、建てる人の発想というよりも、メーカーさんとかのお勧めとかって言うほうになってくるのかなという。このアンケートを見ると、本当にそう思っちゃいますね。

○熊田委員 アンケートの表面を見ると、問い3で実際に買ったのが新築、中古の1軒屋がほぼ7割ぐらい、マンションが3割ぐらいあるんですけども。それで以前住んでいたのは何ですかという、問い2がマンションですよ。マンションから1軒屋、戸建てへの移住か。

○門脇委員 そうですね。そうすると絶対ハウスメーカーさんじゃないですか。そうすると、必ずハウスメーカーさんが定価は三千何百万だけれども、ここをやると17万円もらえますよというのはあれかもしれないですけども、いや、もらっといたほうがいいですよって絶対言うじゃないですか、それは営業マンとして。だから、多分それで知った方というのがほとんどじゃないですか。もし町を決めるといって、さっき支店長がおっしゃったように1,000万出しますよと言ったら、多分みんな喜んで引っ越してくると思うんですけども、17万で選択って、多分何千万って払って皆さん、僕もそうですけれども、死ぬまでローンですからね。死ぬまでローンを払っているわけですから、それを考えると。

○山内委員 問い4のところにありますよね、不動産屋さんに足を運んだ、ネットで不動産屋さん、86%ありますから、間違いなくおっしゃっているとおりですよ。

○熊田委員 分かりました。

ここまでの話を踏まえると、今までのこの施策に対する評価としては、全て達成しています



から、「順調」と言っているのではないかという結果でいいのかなと思います。ただ、このアンケートを見てみると、よりよく分析もできるので、これからの施策に対しては、非常にいい基礎資料になるんじゃないかというところでよろしいですかね。

17番についてはちょっと切り口が違いますけれども、評価と施策の内容がちょっとずれているような気がしますといったところで、附帯意見を述べさせていただきます。

もう一つ、最後になりますけれども、18、19、20の施策を見ていきたいと思います。大学・企業と連携したまちづくりの推進、相互連携事業の取り組み数、それから、大学・企業と連携したスポーツ教育の振興ということで、総合型地域スポーツクラブの大学生会員数、それから、総合型地域スポーツクラブの会員数というところですね。20番については、資料のほうが出ていますので、21ページですね。我孫子市総合型地域スポーツクラブ数及び会員数という実績が出ていますので、併せて参考にしてください。

まず、18番については、達成状況は達成となっております。ゼロ件から増加を目指すというところで、5件まで来ていますけれども。18番についても、増加を目指すという目標値に対して、増減なしというところで、ここは遅延ということなのか。最後、目標数800人について、これに対して実際は486、18%の遅延と。これやっぱりコロナとか関係してくるんですか、20番。

○事務局 ただ、今回は令和元年度分なので、恐らくそこまでの影響は……

○熊田委員 ないんですか。

○事務局 はい。多分例年数がもう500人前後で推移しておりますので、よくも悪くもずっと同じ方々が活動する団体として続いているという現状があるかなと思います。

○川名委員 総合型地域スポーツクラブというのは何ですか。

○事務局 地域をベースにいろんな世代の方が集まり、スポーツなどを通じて交流を深めることで、コミュニティーを醸成させることを目標にしています。ですので、学校の体育館を活動場所にして、その地域の子供たちから大人、シニアの世代まで集まっているいろんな活動しましょうという目的ではあるんですが、ただ、現状はですね、おじいさん、おばあさんの集まる運動クラブみたいになっています。

○門脇委員 これに大学生が出る必要はあるんですか。必要はあるって言っちゃ失礼ですけども、今、高齢者の方たちの健康とかっていうんだったら、大学生は何で出ないといけないのか。

○事務局 学生も入っていただくことによって、その地域の課題解決とか、そういった部分に

いろんな世代で取り組んでもらえるようにという目標があるんですね。なので、19番の大学生の会員数というのも一つの指標として入れてはいるんですけども。一昔前は、何かその大学生の子たちもちょっと入っている時期もあったらしいんですけども、その大学生が卒業してしまうと、そこで関係が終わってしまうというような……

○川名委員 具体的にどんなことをやっているんですか、スポーツ。

○事務局 太極拳、ショートテニス、グランドゴルフとか、ゲートボールに代わってグランドゴルフとか、そういうものが大方、多いですね。

○川名委員 じゃそういうコミュニティーがあって、いついつには今度これをやろうと企画して集まってやるとか、そういう感じ。

○事務局 そうですね。

○川名委員 大学生は入りづらいですね。

○門脇委員 あまり入る意味が分からないなと思って。どうしたら、何で入るかな。

○事務局 大学生がいたときには、メニューでスポーツ鬼ごっことか、ああいうのを大学生が小学生と一緒にやってあげるとか、そういう活動はしていました。

○門脇委員 ボランティアみたいな。

○事務局 そうですね。実際今この方、幾つかのところ、先ほど言ったように体育館等で活動しているので、各小学校に今、あびっ子クラブという放課後子ども教室をやっているの、そことタイアップしたイベントであったり、定期的なお教室というのはやっているんですね。なので、そこに大学生の力が入ってくるといいかなというところで、目標としては立てたんですが、残念ながらその一団のところは抜けた後、後継者が育たなかったというところですね。

○川名委員 なかなか動機が薄いでもんね。

○大炊委員 大学生にとってメリットがないと。

○事務局 おっしゃるとおりですね、きっとね。

○門脇委員 多分これ一番いいのは、川村さんとか中央学院さんができるかどうか分からないですけども、単位にしちゃえば一番いいと思いますよ。今ね、ボランティアを単位にしているところが結構あるんですよ。

○事務局 ありますね。

○門脇委員 それに出ると2単位もらえますとかなんとかとって、結構それは今多いですから。

○事務局 我孫子にもそれで参加される方たち、中央学院とか以外からも、我孫子に住んでい

て、私立の高校とか大学とかに行っているお子さんたちが来ることはあります。

○大炊委員 川村さんの場合は今、うちのほうのいろんな加工品の開発を授業の一環で、地域活性イベント論というような授業を取っていらして、それで参加すると単位が取れるというような形にしているので、毎年継続はしているんですね。

○門脇委員 多分そうですね。

○大炊委員 毎年、人は替わりますけれども。

○門脇委員 ちゃんとしたメリットがありますもんね。

○大炊委員 そうですね。

○川名委員 参加者が楽しいんだったらまた別なんでしょうけれども、なかなか難しいですね。

○門脇委員 完全にスタッフとしてこき使われそうな雰囲気ですね。

○山内委員 このやっている内容を聞くと、一番無難な種目ではあるんですけども、今のトレンドからいけば、例えばフィッシングもスポーツですね。大学生でそういうのがいたら、手賀沼なのかどこなのかというのが1つありますよね。それと、やっぱりせっかく中央学院大学があって、走るということがあれば、走るというね、本当にお年寄りから子供までという部分のある程度種目みたいなものでやったほうがいいのか。このクラブに行くというのは、多分、僕もいけないですね。多分そこの会長さんがいらして、そんなことしないでいいよって言われちゃう可能性があって、大きいから、大学生は無理かなと思いますよね。

○川名委員 総合型地域スポーツクラブというのは、これは市が認定しているものなんですか。何か自然発生的にできているのかな。

○事務局 いえ、違います。市のほうにも届け出てくれるんですが、国のほうの取組として、こういうスポーツクラブというのがあります。ほかの自治体にも様々な団体が登録されています。我孫子では6つの団体が活動しているということです。

○川名委員 そうなんだ。ご年配の方を孤独にしないための組織みたいな感じ。

○事務局 コミュニティの醸成、そして健康スポーツの延長でもありますかね。

○川名委員 結構、県とか国がそういうふうを目指しているということなんですか。

○事務局 スポーツ推進委員さんという方がいらっしゃって、その方を軸に地域で活動をというところで、国のほうでも先進事例ということで、我孫子市は何団体か取り上げられて入るんです。

○川名委員 やっぱりじゃ総合型という、いろんなことをやらなきゃいけないんですか。何か

ね、例えば山登りとかさ、さっき釣りって言ったけれども、目的がね、そのことを好きな人が集まるんだったら、大学生だって一緒に山登りたいとかって思う人もいるかもしれないし、何かそういうふう好きな趣味でくくってやれば来るのかなと思うけれども、なかなか難しいですよ。

○熊田委員 18番についてどうですかね。これは①から⑤まで、総合連携事業の取組数というところで、なかなか面白そうな会議がいっぱいありますけれども。こういう会議を開催して、アウトプットというのは結構出てきていますか。

○事務局 そうですね、こちらのほうは、各所管課のほうで協力はいただいているケースも多々あります。

○大炊委員 大学生に何でもいいから、地域とつながった活動をすると、何か単位がもらえるみたいな。

○熊田委員 ここは基本目標2が我孫子の魅力があふれ、にぎわいのまちづくりというところの一つになっています。ここで大学や企業と連携して、スポーツだったりまちづくりの推進というところになりますので、これをこのままこういった形で続けるのかどうなのかというところもありますけれども、もう少し総合型地域スポーツクラブについてはアプローチの仕方を変えてみようかなという形ですかね。恐らくなくしたり減らしたりとか、そういう話にはなかなかつながらないとは思いますが、指標としては、遅延というふうな見え方がされないような、もしくはもう少し正確に測れるような、大学生にこだわらなくてもいいんじゃないかというところが意見としてございましたので、その辺を付帯意見させていただきたいと思います。

○門脇委員 これ企業はゼロ、実績ないみたいです。大学と企業と書いてありますけれども、大学の実績しかないですね。

○事務局 11月に、これからやりますけれども、手賀沼の遊歩道沿いのところでチームで周回をして競争するというイベントがあるんですが、そちらのほうは企業さんとの協賛ということで実施をして、今回で4年目に入ります。

○門脇委員 それは何でここに入れられないんですか。

○事務局 ここだと入っていないですね。

○門脇委員 ここ大学の実績しかないんですよ。だから、なので、企業がないから、大学と企業との連携したまちづくりで、大学だけやって達成というのもちよっと微妙だなと思っただけです。

○事務局 そうですね、これ抜けていますね。後で追加します。

○熊田委員 これJBFもあるのであれば、産業まつりなんかも、今年はあれですけども、もうまさに企業との連携ですよ。そのあたりもPR材料として入れていければいいんじゃないですか。

○門脇委員 何かいろいろもってありそうな気がしますけれどもね。あれ、ラグビーとかやらなかったんですか、NECとかと。

○熊田委員 グリーンロケッツとのコラボは、行政としてはやっていないかもしれませんね。

○事務局 もしかしたらそういうスポーツのイベントなど、企業との連携というのは恐らく実施していると思うんですけども、この数を出している担当者は、協定を結んでいるかどうかというところで線引きしているかもしれません。大学とは協定を各校と結んでいるので、その締結した中での連携事業という捉え方をしている可能性もあります。今後は企業と連携したイベントとか、様々な取組というところも全て拾えるように、調整したいと思います。

○門脇委員 でも、書き方の問題だけだと思う。大学と企業と連携したまちづくりになっている以上、企業も入れておかないと、達成って言っちゃ駄目じゃないかっていう。

○事務局 そうですね。

○熊田委員 商工会なんかとの見え方もあるんですかね、そうするとね。

○事務局 そうですね。多分その部分も恐らく拾える部分だとは思いますがね。

○門脇委員 書き方だけだと思うんですけども。

○熊田委員 ショッピングプラザさんとはあまり関係ないでしたっけ。

○山内委員 スポーツはやっていないですね。

○熊田委員 スポーツというか、このまちづくりの推進ではどうでしょうか。

○山内委員 まちづくりは子育て支援でやっています。

○熊田委員 では、その辺を見せ方として拾い上げていただいて、ほぼ順調と、18番だけ見れば順調でいいのかとは思いますが、19、20についてが一応指標としては「遅延」ということになっていますので、ここについては、先ほど述べさせてもらいましたけれども、少し何でしょうかね、アプローチの仕方と指標なりを見直してはどうでしょうかというところでどうでしょう、「ほぼ順調」、「順調」とありますけれども。どうですか、門脇さん。

○門脇委員 3つ合わせると難しいですね。

○熊田委員 そうなんですよね。「ほぼ順調」にしておきましょう。「ほぼ順調」でお願いします。

文化・スポーツ課に関しては、もう少しアプローチの仕方があるのかなというところで附帯

意見のほうをお願いいたします。

最後になりますけれども、6ページですね。あびこの魅力発信の拡充、それから地域資源を生かしたにぎわいの創出というところで、21番、シティーセールス動画へのアクセス数、22番、手賀沼沿いの交流空間となる施設の入場者数、親水広場と農業拠点施設というところになっていきます。

改めまして、もう一度伺いますけれども、21番については、一応108%達成ということで、回数に対するアプローチになっておりますけれども、そうしたら、今、資料のほう配られておりますので、説明いただけますでしょうか。

○事務局 お配りした資料のうち、この25のインターネット情報発信業務、こちらにつきましては概要説明と、あと、各年度の実績値になりますので、こちらはA3の一覧表にも落とし込んでありますので、詳しい説明は割愛させていただきます。

もう一枚の令和元年度千葉テレビ放送という表になっているほうですが、千葉テレビで放送した番組をそのままユーチューブのチャンネルにも番組として上げておりまして、そちらの放送日とそれぞれユーチューブでの再生回数を参考として表にしたものです。基本的には毎月1回、千葉テレビで放送しておりますので、全12回の放送の内容をそのままユーチューブチャンネルで加えているといった形になります。

それ以外にも既存の番組はそのままユーチューブチャンネルに残してありますので、あくまで令和元年度に放送した番組のユーチューブ再生回数が一番右下にある計1万7,367回と出ております。

○熊田委員 門脇さん、単刀直入にいかがでしょう。

○門脇委員 いや、もうノーコメントでお願いします。

○熊田委員 次回、せっかくこういう機会でありまして、所管課に来てもらうことがいろいろありますので、秘書広報課にもう一度きちんとお伝えしたいということがあれば、言っていたでもいいのかなと思います。

○門脇委員 多いか少ないかと言われたら、多分少ないかと思うんですけども、でも、別にあとはこれにかけた費用じゃないですかね。

○熊田委員 そうですね、費用対効果ですね。

○門脇委員 費用対効果だと思います。だから、結局ユーチューブの場合は回転数上げるのは、広告も多少必要だったりすることもあると思うので、グーグルさんの広告をかけて。そうやってお金をかければ、回転数って結構上がるんですよ、上げようと思えば上げられるんですけ

れども。だから、やっぱりそこで1回転が費用、例えば普通に回転数とかけたお金で広報費で割れば、1回転させるために幾ら使ったかというのは出てくるんですけども、それが今、日本の中で結構、自治体さんとかでバズるやつとかっていうのも何百万回転とか結構するんですよ、ユーチューブで再生。それが人気の再生なんですけれども、でも、必ず広告かけていますし、あと、その動画の制作費もきっちりやっていたりとか、今だと4K使ったりとか、4Kカメラ使って、ドローン飛ばしまくったりとか、すごい映像に金かけてやっているとかというのもあるので。だから、一概に回転数のこの、毎回言っていますけれども、何回回したかだけを見ちゃうと、ちょっと難しいんですよ。だから、お金かけていないで回しているんだったら、それはそれでいいんじゃないかなと思いますけれども。もしお金かけてこれしか回っていないというんだったら、それはかなりの問題だし。あとはチャンネル登録者数のほうが、回転数よりも個人的には大事だと思います。

あともう一つ言うと、ユーチューブってチャンネル登録しなくても全然見れるんですよ。ですけれども、フェイスブックとかあいうSNSは基本的に友達でつながらないと見れなかったりするものがあったりするので、そこら辺というのが実はちょっと質が違うというか、だから、ユーチューブは個人で何回も同じ人がたたけばいくという、要するに再生数って、同じ人が何回も見れば再生数上がる。1億回再生とかって、毎日こうやってずっとお金もらってたたいている人がいるという噂もあったりとか。ユーチューブって結構そういうところがあたりするので、だから、やっぱりチャンネル登録者数とかも見ないと。

○熊田委員 614人って。

○門脇委員 そうです。614人は別に多くはないですけども、でも、我孫子市さんの人口から考えたらとか、あと、結局誰に見せたいかなんですよ。これって、だから、市外に向けての魅力発信というふうになっているじゃないですか。だったら、本来はチャンネル登録者って市外の人じゃないと駄目だと思うんですけども、すごい難しいんですよ、マーケティングとして。

○熊田委員 昨日たまたまTBSラジオを聞いている時間があって聞いていたら、流山市に住んでいる方をゲストか何か呼んで、ものすごい流山の魅力を実際住んでいる人が発信していました。だから、やっぱりターゲットとなるゲストの方というのがターゲットなんだろうね、流山では。だから、似たような世代の人にPRするということであれば、そういうのがあったんだなと。

○門脇委員 結構難しいですよ。だから、市外の人たちがもし我孫子のことが好きでって

って登録してくれるっていうケースって、僕結構少ないと思っていて、もし見て魅力があったら引っ越してくれるじゃないですか。ちょっと今度市民になるわけですよ。でも、チャンネル登録している人って結構、市民の人なんじゃないかなと思うんですよ。

○熊田委員 そうですよ。

○門脇委員 だから、別にそれはそれでいいんですけども、だから、何ていうんですかね。あまり回転数とかっていうのも、何かあまりどうでもいいかなっていう、どうでもいいとか、それが回ったか回っていないかってあまり。

○熊田委員 なるほど。

○門脇委員 そうですね。だから、あとは千葉テレビさん、これ放送した内容をユーチューブでかけているということですよ。

○事務局 そうです。

○門脇委員 それがちょっと驚きです。すごい2次利用の仕方しているなって。千葉テレビさんはすごいなって。

○熊田委員 千葉テレビは2次利用、ものすごくしていますね。

○門脇委員 そう、オーケーなんだなと思って。普通、テレビ番組をユーチューブに落とすってないから。

○熊田委員 だから、45万円とか60万円ぐらい入ると企業に取材行きますよ。

○門脇委員 チャンネル登録者は多分、地元の方というか、市内の方だと思いますけれどもね、登録して毎回見たいわけですから。でも、市外の人たちが引っ越してくるとか、移住の魅力に係るとなると、別に登録はしないかなってなるんで。じゃ、だから何が指標なのかというと、一応、でもお金の費用対効果を考えたら、一応回転数とかというのは必要だと思うんですけども。何か多いか少ないかはあまり。だから、費用対効果ですね。

○熊田委員 こういうのは、そうですね。じゃ、そういうことであれば、秘書広報課のほうに費用対効果についての検証の目線というところも少し入れていただいたらいいのかなと思います。

○門脇委員 普通に考えて、だって、皆さんにもお伺いしますけれども、ほかの町のユーチューブチャンネル登録しますか。

○大炊委員 しないですね。

○門脇委員 自分が住んでいない町。

○熊田委員 そうですよ。何かおかしいですね。



○門脇委員 おかしいですよ。そこら辺のところかなと思って。あとは、本当は分析できれば一番いいんですけどもね。分析できるんですけどもね、どういう人がたたいているとかって。

○熊田委員 これターゲットが定まらないのも、やっぱり秘書広報課が広報としての役割を担っちゃうということになっちゃっているからなんですかね。所管課からこういう広報の仕方とか、こういうターゲティングをお願いしますというところが入り口になっていないんですかね。

○事務局 本来なら所管課と魅力発信室がきちんと話し合っただと設定するべきだとは思いますが、それができていないのが現状です。

○門脇委員 基本的には、やっぱりプロモーションで使うものなんで、この手のやつというのは。だから、移住定住につながるかという、それよりも認知拡大のほうが、我孫子っていう名前を売るとかのほうが、あとはこういうチャンネル登録していろんな魅力発信しているんだったら、町の人たちが見て「へえ」と思うような内向き発信を。外向きなら番組の内容が変わってきちゃうんですよ。だから、そのあたりをどういうふうに考えているのかなと思って。例えばバズるやつとかってというのは、やっぱり中身が面白いというか、何か話題性があったりするんですよ。

この動画で一番ブレイクして今有名なのがくまモンであって、ご存じかどうか分からないですけども、くまモンってももとは九州新幹線のプロモーションキャラクターだったんです。九州新幹線って実は大阪からなんですよ、基本的には。東京から一気に鹿児島まで行かないので、どこかで東京からだ乗り換えないといけないんですけども。なので、熊本に初めて新幹線が通りますとあって、そのときにくまモンが大阪に行って、その新幹線の開通の前に大阪にプロモーションに行きました、行ったんですけども、もちろんゆるキャラとして。そしてそこで何をしたかという、大阪で迷子になりましたっていうニュースを流すんですよ。それで、ユーチューブで知事が記者会見して、実はうちのくまモンが新幹線のプロモーションで大阪に行ったんだけど、迷子になってしまったってやるんですよ、知事が。うそなんですけれどもね、もちろん。それで、大阪府民の皆さん、うちのくまモン見つけたら写真を投稿してくださいと、目撃情報を下さいとやったんですよ。それで、くまモンはまじで大阪でいろんなところに出てくるんですよ、公園とか。そうすると、府民の人たちが撮って上げてきて、それで盛り上がったんですよ。そこから今のスター街道に上がっていくんですけども。

だから、結局そういう話題があったりしないと、外部から見たりとかってというのは難しいかなという。だから、そういう協力をね、何年か前に大分の温泉のテーマパークやるっていつて

ユーチューブで流したのありましたよね。ユーチューブが何万回転したらテーマパーク造りますとかっていうのをやって、100万かなんかかな。一気にやって、遊園地造りましたよね、温泉と遊園地、期間限定でやっていたじゃないですか。裸でジェットコースター乗ったりとかできるという。あれも知事が出てきてやったりとか。

だから、ああいうふうにすると、町として。だから、これはだって、この内容を見ていると、これ多分、市民の方が見たほうがいいですよ。面白いっていうか、へえって思うじゃないですか。だって、中央学院高校のこととか、トライアスロンやっていますとか。だから、町の本当に、結局シティープロモーションって二面性があるので、外に発信してきてもらうというのと、あと、中の人たちに居続けてもらうという、住み続けてもらうという、その二面性があるんですけども、どっちかという住み続けてもらうほうにやっていくとかっていう。だから、多分そこを明確化していかないと、これ回数とかいつまで追っていても、あまり関係ないかなど。だから、もしこういう指標をつくって達成したなら達成で、それはそれでいいと思います。すっていうことしかちょっと言えないかなと思います。

○山内委員 あれですよ、発信の回数でアピールするという道具でいけばいいと思うんですよ。その運用の仕方、うちの会社でいけば、必ず登録してもらって、お店に来たらポイントつきますよとか、お買物したらまたつきますよという、その後々のやつはやっているんですよ。それが市が何を求めるかによって、それが変わってくるということなんですね。

○門脇 そうですね。

○熊田委員 ありがとうございます。

では、最後、22番のほうについて、大炊さん、いかがですか。116%達成というところで、親水広場、拠点施設のほうになりますよね。

○大炊委員 去年はじゃぶじゃぶ池ができたおかげでかなり、例年以上に集客が増えました。今年はやっぱりコロナがありますので、若干減ってはいますけれども、やはりステイホームに飽きた方たちがお散歩とか、公園的な機能が非常に強いので、平日よりは土日にご家族連れでお散歩とかちょっと遊びに来られたりして、ゆっくりと1日過ごされるという様子があるのかなという。そのついでにお買物をされたりとか。逆に買物されて、外にゆっくりされるというような、そういう意味での使われ方が非常に多いのかなと。

○熊田委員 今後の事業の下から3行を見ると、我孫子市、柏、印西で構成する協議会で広域的な施策展開について検討するとかっていう、この非常に何か取組としては前向きな感じも書いてあるので、何か期待したいですね。

○大炊委員 そうですね。でも、実際、今、柏市さんのほうでは道の駅を新設しているような状況で、民間の場合はもう絶対に協力するというよりは本当、敵対じゃないですけどもね、同じようなことをやっていますので、うちのほうが、うちのほうがという形で経営してるんじゃないかなとは思いますが。現状、道の駅さんのほうで工事をしているということで駐車場が狭くなっているためか、こちらのお客様も若干増えているところはあるんですけども。向こうが本当に新規オープンしたときにどうなるのかなというような心配も実際のところはありませんけれども。きちんとしたうちの農業拠点施設としての目的をはっきりして運営していけば、いつかは向こうに流れるかもしれませんが、リピーターはまた戻ってきてくれるんじゃないかなというような話をしているところで、その対策を検討しているところではあります。

○熊田委員 連携する方向ではなかなか。

○大炊委員 そうですね。ですので、実際、具体的には連携はお互いのパンフレットを置いているぐらいなところで。実際の何か企画をすとかイベント企画とか、そういうことは今のところはやっていないですね。今、向こうで工事をしていて駐車場が狭くなっているの、それに対応して駐車場はほかにも、反対側の水の館のほうにもありますよみたいなチラシを置いているという話も聞いていますけれども。

○熊田委員 駐車場か。

○大炊委員 積極的な協力というのはないですよ。

○熊田委員 そういう意味では、そこはもう少し踏み込んでほしいという形はありますね。

○大炊委員 そうですね。

あといろいろ個人的に、民間サイドで手賀沼を盛り上げる、自然環境をよくする活動をされている方たちは、個人的にはやられていますけれども、市としては実際はいないと思います。

○熊田委員 もったいないですね。ありがとうございました。

それでは、21番については、引き続き従来からの厳しいご意見が出ていますので、ちょっと見直しは必要なのかなと。それから、22番についても、今の大炊さんの意見を中心に検討させていただくと、どうしてもやっぱり「順調とはいえない」ということになるのかなと思いますけれども、川名さん、いかがですか。

○川名委員 そうですね。達成、達成で、順調とはいえないでいいのかどうかという難しいところがあるなと。指標としては達成なので、評価としては順調といえると思います。

○熊田委員 そうですね。順調ですか。

○川名委員 順調にせざるをえないような気はしますね。

○門脇委員 これはこれで、今年で、だって終わりですよ、終わりというか。だから、順調だったんじゃないですか。

○熊田委員 我孫子を知ってもらおうという動きとしてはよかったというふうに前向きに捉えていけばいいですかね。

○門脇委員 結構、交付金でお金かけてやっていたのもあるじゃないですか。何でしたっけ、山手線で僕見たこともあるし、動画が流れていたの、二、三年前だと思いますけれども、どこか、東京で目にする機会が何回かあったので、それだけお金はかけているんだと思いますけれども、もちろん。

○川名委員 これからじゃないですかね。ただ、最初は何かやらなきゃ、お金もらえるんだから取りあえずやってみようねって。これからは、やっぱり中身をね、反省を踏まえて違うものというものにしていくという形になると思うんで、これはこれで達成なので。

○門脇 いいんじゃないという話です。本当にさっきね、柏の道の駅ができたらどうなるのかなって。今、向こうの柏側は意外とおしゃれなカフェとかできていて、手賀沼沿いに。人がすごい流れているんですよ。柏の方と話をしたんですけども、ようやく何となく地元の方に、あっちのほうへ行くとおしゃれなカフェが何軒かあるよという認知がついてきたみたいで、土日はほぼ満席というか。

○大炊委員 でも、週末しかやっていないんですよ。

○門脇委員 そうなんですよ。

○大炊委員 都心に働きに行かれている方が利用する向けに週末だけ。

○熊田委員 手賀の杜のほうですよ、多分ね。

○門脇委員 そうですね、もう何軒かあるんですよ。徐々に、増えているらしいです。

○熊田委員 週末だけ何かイベント、歌手を呼んだりとか。

○門脇委員 やっぱり日本人の特性で、行列している店に並ぶのと一緒に、何か店ができてにぎわっていたら、何かお金の匂いがしたらみんな寄ってくるというか、というのが今、手賀沼に徐々に、柏側ですけども、あの沼南のほうの。出来上がってきているので、チャンスと言えばチャンスだと思うんですよ。

○熊田委員 我孫子のラーメン街道ももうちょっと頑張っってね。

○山内委員 そのゾーンに人が集まるということは、あふれるということですから、チャンスですよ。

○門脇委員 そうだと思います。本当にそうなんです。だから、まだ2匹目も3匹目もドジ

ヨウがいる可能性が高いと思いますし。

○大炊委員 結局、今まであまり手賀沼というのは、同じく柏でもそうなんでしょうけれども、あまり人が集まってこなかった。ここで手賀沼方面に人が動き出しているというのはいい傾向ですね。

○門脇委員 大事なことです。すごい大事なことだと思うんですよ。

○熊田委員 分かりました。

では、「順調」に丸をしたいと思います。

また戻っちゃうんですけれども、住宅補助金に関するアンケートがありますので、この中で我孫子のシティーセールス動画を見ましたかなんてあってもいいですよ。

以上で終了になります。

前回、基本目標3と4について気になるところがあればというところを提案させていただきましたけれども、大炊さんはお休みになりましたけれども、何かございましたか、山内さん。川名さんと門脇さんも何か気になるというところがあれば。

特にないようであれば、この後なんですけれども、次回に向けてどうしましょうかということで、何か、今の話もそうですけれども、少し熱意を持って何か伝えたい所管課ってどうですかね。A班でいうと、企業立地と商業観光課、それから、高齢者支援課、それと農政課、建築住宅課、秘書広報課、企画と文化・スポーツ課。

○事務局 1つご提案なんですけど、先ほど学校教育課か農政課か呼ぶのを悩んでいたところではあるというお話はさせていただいたんですが、今日の議論を聞いていると、どうも農政課を呼んだほうがいいかなという感じがありますので、両方合わせて今後の農業展開というところで農政課のほうにちょっと声をかけたいなと考えています。

あと、魅力発信のほうはですね、市長のほうからも、もう一つ、総合計画審議会もあるんですが、そちらより、どちらかというところのほうの方がより具体的なデータを見ていただいているので、こちらでちょっと意見交換の機会を設けてもらってもいいのかなという意見もいただいていますので、そこのところはイメージはしております。

あと、別のグループのほうでいくと、自治会関係ですね、一番、地域の基礎となる自治会の停滞というのが全てのところに波及しているという課題が見えてきていますので、そこの所管課をちょっとイメージはしております。

あと、もう一つ、二つぐらいあるのかなと思います。

○熊田委員 そうすると、シティープロモーションのほうは。

○事務局 呼びます。

○熊田委員 じゃ秘書広報課ですか。

○事務局 はい。

もともとは魅力発信だけ呼ぼうかなというふうに思っていたんですが、先ほどの皆さんのお話を聞くと、広報の中で担当が2つに分かれているので、両方を呼んだほうがよりいいかなというふうには感じています。

○熊田委員 大炊さん、手賀沼課はどうしますか。

○大炊委員 そうですね、基本とすれば、本当、あそこの親水広場を手賀沼課だけで盛り上げるのではなくて、いろんな課で、やっぱり横ぐしになって、もう我孫子市全体になって協力して盛り上げないと、1課だけでできるもんじゃなくて。例えばこれをこうしてほしいって農政課に言うと、それは手賀沼課の管轄だからってというふうに流されちゃうんですね。そうすると、何か申請書を市が回してという感じで、それが一つのアそこを盛り上げる課みたいなものがあると、もうそこで一発でできるというような流れにしていかないと、本当にタイムリーにどんどんと進まない。

○熊田委員 ですよ。特命課みたいなものがあるといいですよ。横つながりの特命課が。結局、我々の意見って、みんな横つながりの話をしているんですよ。

○大炊委員 そうなんですよ。観光でも盛り上げようというのに、商業観光課とはダイレクトになかなか話ができない。一旦、農政課を窓口にしてねみたいな形。そこで取捨選択されて上にいったりとか、もうそれすごく時間がかかって歯がゆいしというところで、本当に我孫子市としてあそこの親水広場を集客の地として盛り上げようという気持ちがあるのであれば、ぜひそういうような取組をしていただかないと、先発チームじゃないけれども、そういうところで。

○熊田委員 そうですよ。やっぱり特命じゃないですか。

○事務局 ちょっと手賀沼課と商業観光課、両方呼ぶか、ちょっとそのところはまたこちらで検討させていただいて、おっしゃっている意味はすごい分かるんです。我々もそれ、行政内部でもふだん感じていることではありますので、ちょっとどういう呼び方をするのかは、ちょっとこちらで検討させていただきたいと思います。

○大炊委員 お願いいたします。

○熊田委員 企画課は確かにこっち寄りですもんね、考え方とかが。

○事務局 はい。気持ちはすごい分かります。

○熊田委員 川名さんもあれですか、どこか呼んでいただきたい部署って何かありますか。

○川名委員 しかるべく。なかなかね、難しいですよ、みんな権限があるからね。

○大炊委員 先ほど本当、皆さんが農業に関していろんなお考えを持っていただいているのが、それが現場の農政課さんがどこまで、その今の現状というのを把握してくださっているのかなというのが、今、農政課さんが動いているのを見ると、何年か前に計画を立てたものをとにかくそれを実行しよう、実行しようということで動いているような。でも、その何年か前のものが現状に本当に合うのかどうかというところに立ち返って、やっぱり原点に立ち返っていえば、これから5年後、10年後のあそこの農業をどうしようかという視点で見えていかないと、5年前に計画をしたものが指標ができていました、できていなかったかという議論じゃもう済まされない状況に来ているんじゃないのかなと思いますので、ぜひ。

○熊田委員 今回、総計審のほうで少しまとめ方を広げたじゃないですか。あの発想も、今回こっちのまち・ひと・しごとのほうにも少しあったりするんですか。

○事務局 次は総合計画の中に、このまち・ひと・しごとが合体していくようなイメージになるので、だから皆さんが今おっしゃっているような、変えたほうがいいよというのは、そちらのほうで反映していくというイメージはしています。

○熊田委員 ありがとうございます。

では、企画課のほうに所管課の件についてはお任せしますといったところで、閉めたいと思います。

じゃ、これで今日のA班の課題については終了しますので、あとは事務局のほうでお願いします。

○事務局 では、皆さん、本日はありがとうございました。

次回につきましては、またこちらで所管課のほうを調整させていただいて、ある程度固まり次第、またメールにてお知らせさせていただきます。

開催時期につきましては、来月、12月の初旬から中旬ぐらいで、また候補日を設けて、こちららも併せてメールで調整させていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

あと最後に、机前にお配りさせていただきました前回の第1回目の会議録なんですけれども、修正等がございましたら、来週中までに事務局のほうへご連絡いただければと思います。

この後、ワードとPDFと両方のデータにして皆さんにお送りいたしますので、よろしく願いいたします。

では、今日は第2回目の会議、これで終了したいと思います。

お忙しい中ありがとうございました。